

果樹カメムシ類情報第4号

令和元年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

予察灯でのチャバネアオカメムシの誘殺数が8月第4半旬に急増！

1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

豊橋市に設置した予察灯で、チャバネアオカメムシの誘殺数が8月第4半旬に急増し、新城市の予察灯でも、8月第4半旬に増加しました(図1)。これは台風10号の影響による一時的な増加の可能性もありますが、今後の発生状況に注意してください。また、ツヤアオカメムシは豊橋市の予察灯で、8月以降やや多く誘殺されています(図2)。

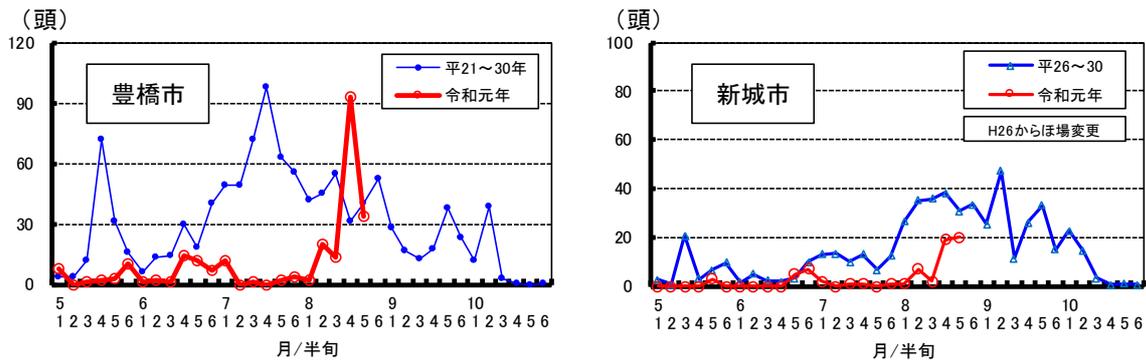


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

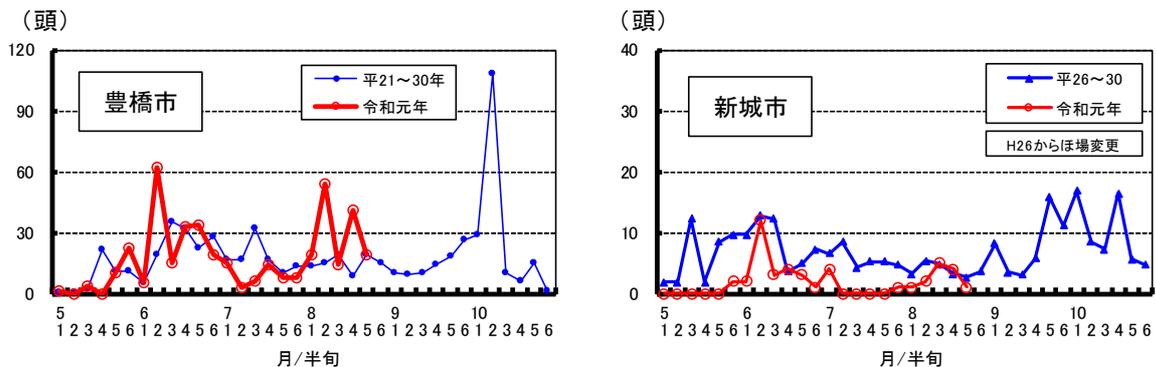


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシの誘殺状況

2 今後の発生予測と防除対策

- (1) 7月中下旬に行ったヒノキ球果の口針鞘数調査の結果、県内各地点でのヒノキ林からのカメムシの離脱時期は地域間でばらつきが大きく、7月中旬～9月中旬と予測しました(8月2日発表「果樹カメムシ類情報第3号」を参照)。このため、多くの地域でヒノキ林から離脱し果樹園への飛来が始まっていると推測されます。
- (2) 名古屋地方气象台8月29日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、今後、果樹カメムシの活動も活発になり、果樹園への飛来増加に伴う被害発生のおそれがあります。
- (3) 中山間部やスギ・ヒノキ林に近いほ場及び例年飛来量が多いほ場では、発生状況に十分に注意し、飛来を確認したら表を参考に防除しましょう。収穫中のほ場における薬剤の使用にあたっては、収穫前日数に注意しましょう。

表 かき及びかんきつのカメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
かき	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド	収穫7日前まで	3回以内	4A
	キラップフロアブル	エチプロール	収穫7日前まで	2回以内	2B
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫3日前まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	ビフェントリン	収穫3日前まで	2回以内	3A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫前日まで	3回以内	4A
かんきつ	MR. ジョーカー水和剤	シラフルオフエン	収穫14日前まで	2回以内	3A
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫14日前まで	3回以内	4A
	スミチオン乳剤	ME P	収穫14日前まで	3回以内 (樹幹処理は1回以内)	1B
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	ビフェントリン	収穫前日まで	3回以内	3A

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2019/mechanism_irac02.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。